

2050年カーボンニュートラル 実現に向けて取り組むべきポイント

ーサプライチェーン排出量削減に向けた省エネルギー対策及び物流の省エネ・脱炭素化についてー



★サプライチェーン排出量 = スコープ1 + スコープ2 + スコープ3
(直接排出) (間接排出) (スコープ1,2以外の間接排出)

2024 **2/26**

MONDAY 14:00~17:00

会場及び
オンライン
開催

参加費無料

メイン会場：ABO HALL501AB会議室
(名古屋駅桜通口から徒歩3分)

オンライン：Microsoft Teams

*申込方法等は裏面をご参照ください。

2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、需要サイドにおいて徹底した省エネルギー対策を進めていくことが必要です。また、温室効果ガス排出量の多い産業部門や運輸部門において、各事業者の取引先を含めたサプライチェーン全体における温室効果ガス排出量（サプライチェーン排出量）の削減への対応が課題となっています。

今回の省エネルギー推進シンポジウムでは、サプライチェーン排出量削減に向けた省エネルギー対策、物流の省エネ・脱炭素化など、カーボンニュートラルの実現に向けて企業が取り組むべきポイントについて最新動向や具体的な実践例をご紹介することに加え、質疑応答や意見交換を行うことで取組ポイントの深掘りを試みます。ご関心のある方は是非ご参加ください。

主催：中部経済産業局
問合せ：セミナー事務局/
株式会社ダン計画研究所内 Tel：06-6944-1173

プログラム

第1部 サプライチェーンで求められる企業の省エネルギー対策について

施策説明 「改正省エネ法を踏まえた手続きについて」

中部経済産業局 エネルギー対策課より、2023年4月に施行された改正省エネ法を踏まえた手続きについて解説します。

基調講演-1 「日本のGXの展望と課題ー企業に求められる対応とは」

国際環境経済研究所 理事・主席研究員／東北大学 特任教授(客員)／
U3イノベーションズ合同会社 共同代表 竹内 純子 氏

企業講演-1 「カーボンニュートラル対策に取り組む企業事例： 日本特殊陶業の取組のご紹介」

日本特殊陶業株式会社 サステナビリティ戦略室長
兼 経営戦略室 シニアマネージャー 北河 広視 氏

意見交換-1 「サプライチェーンで求められる企業のカーボンニュートラルに 向けた取組とは」

「事前質問を元に、サプライチェーン全体における省エネルギーの観点で企業が取り組むべきことは何か、講演いただく竹内氏と北河氏により、意見交換を行います。」

第2部 物流の省エネ・脱炭素化のポイントを学ぶ

基調講演-2 「持続可能な物流の構築に向けて ー物流面でのカーボンニュートラルの現状と課題」

流通経済大学 流通情報学部 教授／同 物流科学研究所長 矢野 裕児 氏

企業講演-2 「環境と効率の共存 『フェリーで繋ぐ脱炭素社会への航路』」

太平洋フェリー株式会社 物流営業部 次長兼モーダルシフト推進担当 古市 洋正 氏

意見交換-2 「物流の省エネ・脱炭素化に向けて企業が取り組むべきこと」

事前質問を元に、物流の省エネ・脱炭素化に向けて、荷主や輸送事業者の連携によりどんな取組ができるのか、講演いただく矢野氏と古市氏により、意見交換を行います。

2050年カーボンニュートラル実現に向けて取り組むべきポイント

— サプライチェーン排出量削減に向けた省エネルギー対策及び物流の省エネ・脱炭素化について —

2月26日(月) 14:00 ~ 17:00

ABO HALL 501AB会議室

参加費無料

ハイブリッド開催

会場50名・オンライン*500名



* Microsoft Teams 開催
(開催前に配信アドレスを参加者へ送付します)



お申し込み方法 (締切2月20日(火)まで)

下記のホームページアドレスもしくはQRコードより申込フォームへ進み、必要事項を記入して下さい。

https://www.chubu.meti.go.jp/d33shouene/2023fy_chubu-energy-conservation/index.html

【講演者プロフィール、取組内容等】

国際環境経済研究所 理事・主席研究員／東北大学 特任教授(客員)／U3イノベーションズ合同会社 共同代表
竹内 純子 氏

東京大学大学院工学系研究科にて博士(工学)。慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、東京電力で主に環境部門に従事した後、2011年に独立。専門はエネルギー・温暖化政策で、東北大学特任教授としてエネルギー・温暖化政策の研究・提言に取り組む。気候変動に関する国連交渉(COP)にも長く参加し、GX実行会議や規制改革推進会議等の政府委員を多数務めてきた。2018年には主にエネルギー分野のスタートアップと協業し、新たな社会システムの構築を目指してU3イノベーションズ合同会社を創設。政策とビジネス両面からエネルギー変革に取り組んでいる。

日本特殊陶業株式会社 サステナビリティ戦略室長 兼 経営戦略室 シニアマネージャー 北河 広視 氏

世界トップシェアを誇るスパークプラグ、自動車用酸素センサを中心としてその他内燃機関関連品、ニューセラミック及びその応用商品の製造、販売を行う。2050年カーボンニュートラルを目指すことを前提として、2030年までのありたい姿(目標)と2040年までの目指す姿を示す「エコビジョン2030」を策定。同ビジョンにおいて、CO₂排出量の削減目標として「2030年度:2018年度比30%削減」(SCOPE1,2)を宣言するのに加え、サプライチェーンにおいても「2030年度:2018年度比30%削減」(SCOPE3)を目指し、省エネ、ものづくり・働き方改善、創エネ、エネルギー調達等の4つのプランで施策を行い、計画的なCO₂排出量削減と経済的成長を両立する取組を実践している。

流通経済大学 流通情報学部 教授／同 物流科学研究所長 矢野 裕児 氏

横浜国立大学工学部大学院修了、日本大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。日通総合研究所、富士総合研究所を経て現職。専門分野はロジスティクス・物流・流通・都市計画で、物流における環境問題、企業物流、農産物物流、人手不足、災害時対応等について研究。経済産業省「総合資源エネルギー調査会 省エネルギー小委員会 荷主判断基準WG座長」をはじめとする多数の公職を務め、2023年10月には日本物流学会会長に就任している。

太平洋フェリー株式会社 物流営業部 次長兼モーダルシフト推進担当 古市 洋正 氏

国内最大級の大型カーフェリーで名古屋～仙台～北海道の約1,330kmを結ぶ定期航路を運航。荷主となる事業者の貨物輸送を船舶に転換するモーダルシフトを多数支援することで、環境負荷低減に貢献したと認められる優良事業者として「海運モーダルシフト大賞」を受賞する地域事業者を多数輩出。自身も最新技術を導入した省エネ船の採用や海上輸送と陸上輸送の間において荷台のみを引き継ぐ海陸一貫輸送を行うなど省エネやCO₂削減等に関する活動に積極的に取り組み、交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰を受賞。この他に、船舶設備における排熱エネルギーの有効活用、業務改善による環境への配慮なども行っている。

セミナー事務局 (株式会社ダン計画研究所内) TEL 06-6944-1173 E-Mail info@chubu-energy-saving.go.jp

ご記入いただいた個人情報は、本シンポジウムに関する運営・情報提供、主催者のセミナー等に関する情報提供についてのみ使用いたします。